

## 平成23年度 第2回 太田市公共工事入札等監視委員会 会議概要

開催日時	平成23年11月22日(火) 15:00~16:30
開催場所	本庁舎4A会議室(4階)
主な内容	平成23年度 第2回太田市公共工事入札等監視委員会
出席者	[委員] 中原 國隆 委員長代理、穂積 照雄 委員、坂本 正堂委員 神保 益夫委員、藤田 修司 委員 [事務局] 大隅総務部長以下7名

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

#### 《委員長代理》

- ・ 本日は、委員長不在のため、委員長代理を務めさせていただきます。毎回、この委員会は真摯な協議をしているので本日もよろしくお願ひします。

#### 《総務部長》

- ・ 本日は、契約課で契約しました356件の中から抽出していただきました6件の案件について入札状況を検証していただきたいと思ひます。
- ・ 太田市は、近隣都市と比較しましても投資的経費は大きく、ここ数年は100億円を越える額が続いています。しかし、今後ともこのような投資ができるかどうかは判りませんが、併せて市債も多いため引き続き、健全財政に努めていきたいと考えております。
- ・ 投資経費が低下すれば必然的に入札による競争も厳しくなりますが、引き続き公平、公正そして競争性を念頭に事務を進めてまいります。よろしくお願ひします。

### 3. 審 議 (進行：委員長代理)

- (1) から (3) まで一括して事務局から説明を受けた後、質疑を受けたいと思ひます。

#### (1) 平成23年度上半期入札契約状況について・・・事務局説明

##### ◆資料1より説明

##### ・競争入札

契約件数、落札金額は、前年度同時期と比較し、それぞれ8.25%、25.28%増加していますが、この傾向は学校の耐震化補強事業や各種工事の早期発注に努めた結果ではないかと考えます。また、落札率が低下している点は、入札制度の見直しで、くじ引きを抑制したいことから、最低制限価格の算定方法を公契連モデル式から平均額型方式を採用したのですが、相変わらず最低制限価格での応札が増加しているためです。指名競争

入札については全体で 77 件実施し、落札率は単純平均落札率で 85.45%、加重平均落札率で 80.76%でした。

・見積審査契約

随意契約の 15 件の主なものは、工事でさくら工業団地仮置土搬出工事、四号炉償却設備工事など 6 件と（仮称）新太田市民会館建設事業基本設計業務委託など 9 件です。落札率は単純平均落札率で 97.41%、加重平均落札率で 97.19%でした。

(2) 総合評価落札方式の実施状況と検証について・・・事務局説明

(3) 総合評価落札方式の評価基準の見直しについて・・・事務局説明

◆資料 2, 3 より説明

- ・ 5 ページのとおり、平成 23 年度上半期は 6 件実施しました。毎年度、評価点の見直しを行ったことで、企業成績・技術者成績が高い者が落札する傾向になってきており、より優秀な企業(技術者)の配置が可能となってきたようです。

落札率では、平成 22 年度の比で 0.30 ポイント低下しており、年々落札率は低下しています。これは、各案件とも最低制限価格近辺での応札が多いことが要因になっています。入札不調・入札中止案件の現象を含め厳しい競争の中で、総合評価落札方式案件においても積極的な参加と積算努力が伺えます。

評価項目の見直しについては、労務的な実績を評価点としてきたが、社会貢献の部分が明確になっていないため、これを明確化するとともに、ボランティア実績については、過去 3 カ年間に於ける 1 回以上の実績を加点していたものを、単発でなく、毎年継続的に実施し、その実施回数に応じて優遇する評価基準を設けることとしました。

[質 疑]

・ **ボランティアで加点した背景あるいは理由は。**

→ 地域貢献については、地区におけるクリーン作戦のようなものは対象外とし、太田市への貢献を第一に考えています。また、継続的に行われているものを加点し優遇しようという意図で見直しました。具体的には、市の徳行者表彰や寄付行為等についても、本市への地域貢献行為として実績になるようにしました。この評価基準の見直しについては、入札審査委員会で審査し決定しています。

・ **災害協定を締結している団体は、いざというときに、地域づくりには役に立つことである。現在の災害協定の締結状況は。そして拡大する予定はあるのか。**

→ 災害協定により、いざ災害があった場合、建設関連団体の皆さんに大変お世話になることとなります。建設業界では、災害協定は余りメリットが無いと考えているようです。災害協定の協力者の拡大は、建設業組合加入者と未加入者がいますので、調整が難しい問題もあります。

しかし、現状とすれば、ほとんど雪の降らない太田市では、路面凍結の防止等で災害協定業者の皆さんにお世話になっています。

・ **災害協定とは、はじめから班体制等が整っているのですか。**

→ 災害協定は、建設業界の会員の皆さんがそれぞれの持ち場が指定されており、災害時に出動する態勢をとっています。

●**上半期抽出案件 6 件の入札契約状況の説明をお願いします。(委員長代理)**

(4) 平成 23 年度上半期内容審査案件について・・・事務局説明

[条件付一般競争入札]

◆No.1024 太田市立宝泉中学校校舎耐震補強工事

- ・ 本案件は電子入札によるもので、入札を平成 23 年 6 月 8 日、事後審査方式により 6 月 18 日に落札決定したものです。

工事概要はRC造校舎 3 棟の耐震補強工事です。入札参加要件は、「建築一式A等級」に登録された業者で「特定建設業許可を有すること」、「市内に本店を有する業者」です。予定価格については事前公表、最低制限価格については平均型最低制限価格を採用するため必然的に事後公表になります。本案件は該当業者 14 者中 13 者が応札し 11 者が最低制限価格の応札で同額となったためくじ引きで落札者を決定しました。

◆No.1009 太田市立太田小学校屋内運動場増改築電気設備工事

- ・ 本案件も電子入札によるもので、入札を平成 23 年 5 月 11 日、事後審査方式により 11 月 18 日に落札決定したものです。

工事概要は屋内運動場の増改築に伴う電気設備工事一式です。入札参加要件は、「電気 A 等級」、「市内に本店を有するもの」です。予定価格は事前公表、最低制限価格前述のとおり事後公表です。本案件については、平均型最低制限価格の設定により 82.12%が最低制限価格となりました。入札結果は 16 ページのとおりです。応札額も比較的高く落札率は 93.92%であり、本市の入札案件としては比較的高い案件です。

[総合評価落札方式]

◆ No.76 太田市立太田小学校屋内運動場増改築建築工事

- ・ 本案件は総合評価落札方式によるもので、入札を平成 23 年 5 月 24 日、事後審査方式により 5 月 27 日に落札決定しました。市議会の議決案件のため、仮契約を経て議決日の 6 月 21 日に本契約したものです。

工事概要は鉄骨平屋建て（1055.1 m<sup>2</sup>）屋内運動場を建設するものです。入札参加要件は「建築一式A等級」に登録された業者で「特定建設業許可を有すること」、「市内に本店を有する業者」です。予定価格及び最低制限価格は事後公表としています。ただし、最低制限価格の設定については旧公契連モデル式より算定しています。評価調書は 21 ページのとおりです。11 者が応札し価格点で一番高かった業者が落札率 85.29%で落札しました。

[指名競争入札]

◆ No.4067 農村地域等環境整備事業北部地域水路等整備工事

- ・ 指名競争入札は、予定価格 300 万円未満の土木工事(建築工事は 500 万円)で実施しています。

本案件の工事概要は、土工一式、水路工 200m、付帯工一式です。指名要件は「土木一式C又はD等級」、「市内に本店を有する業者」に登録された業者で地域性・過去の施工実績・手持ち工事の状況を考慮し5者を指名して入札しています。予定価格は事前公表、最低制限価格は事後公表です。入札結果は23ページのとおりです。落札率は98.25%でした。

◆ No.4068 休泊行政センター機械室給湯配管工事

- ・ 本案件の工事概要は、機会室内の給湯、ろ過配管を銅管からステンレス管に改修する工事です。指名要件は「管B等級」、「市内に本店を有する業者」に登録された業者で地域性・過去の施工実績・手持ち工事の状況を考慮し5者を指名して入札しました。予定価格は事前公表、最低制限価格は事後公表です。入札結果は24ページのとおりです。本案件は落札候補者が事後審査で失格となったため、第2順位の者を落札者としたものです。落札率は99.63%でした。

[随意契約]

◆ No.4 さくら工業団地仮置土搬出工事

- ・ 本案件の工事概要は、さくら工業団地分譲計画に伴い、分譲予定地に仮置してある土砂(約 33,000 m<sup>3</sup>)を土地開発公社保有地に搬出する工事です。随意契約とした理由については、本工事内容での市場価格を把握するため、過去に当公社発注工事にて大規模な土砂運搬の実績のある業者から見積りを徴取した結果、工事費を大幅に削減することができること及び同団地内道路の破損等についての瑕疵担保責任期間中であることです。落札率は100.00%です

[質 疑 意 見]

→ 最近、新聞紙上で贈収賄事件の記事がありましたが、太田市については過去にもそのような事件が発生していますので、予定価格の事前公表や事後公表については慎重にならざるを得ません。価格等は伏せるから聞きたくなるので、やはりできる限りオープンがよいと考えます。このような課題は逐次入札審査委員会で議論して決定しています。

・ **土木工事は75%で落札し、電気設備工事の落札率が高いのは何か原因があるのか。**

→ 設備工事等は、機材費が工事費のうち大きなウエイトを占めていることではないでしょうか。土木工事では業者数も多いため、一本でも多く受注したいため最低制限価格での応札が多くなっているようです。また、電気設備工事関係でも入札参加要件を拡大した場合は変わるのではないのでしょうか。

・ **建設工事に係る重機等の稼働率が問題になるだろう。製造業では稼働率は一定しているが、建設工事では重機やダンプトラックなどは受注状況によりかなり違ってくる。やはり建設工事では予定が立たないと稼働率は上がらないと思う。重機等の維持費は固定しているので稼働率は非常に重要である。大体、建設工事では利益率はどれ位なのか。**

→ 理論上は、予定価格すなわち設計額の一般管理費(11~15%位)が儲けになっていると考えられています。

- ・ 入札では最低制限価格でくじ引きが多いとのことだが、これが異常だと思えます。電気工事は部材費が大半を占めるものだから、この開札結果が普通なのではないでしょうか。そもそも予定価格の定め方が正しいのかも疑問の一つです。(委員意見)
- ・ 落札金額が安いことは、私たち市民にとって大変良いことですが、「安かろう、悪かろう」では困ります。工事の品質も確保していただかないと。
  - 事業担当課の監督員が、現場管理で品質管理を行っていますが、現場に常駐し全て見ていられる訳には行きません。検査課では、中間施工検査という形で抜き打ち検査を実施しています。完成検査と併せて品質確保に努めています。
- ・ 入札で業者が不満に思うことは、“くじではずれたこと”が悔しい。くじで落札したところは次の機会には抜いてほしいという話も聞く。
  - 現在の入札制度では、近隣工事や類似工事等については、一件取ったら取れない“取り抜け”方式等により多くの業者への受注機会を拡大していますが、単にくじで落札した業者を排除することは法的にも難しいと思えます。
- ・ 発注段階で原則「市内」として限定した時点でこうした状況は仕方ないと思う。特に水道業者の団結は固い。他市からの参入はできないルールとなっている。桐生市や伊勢崎市も同様にしかり。こうした中で競争させることは難しいことです。(委員意見)
- ・ 長時間にわたり事務局には説明ありがとうございました。(副委員長)

(5)その他

- ・ 当委員会終了後、別紙のコメントの提出をお願いしたい。(事務局) [全員了承]

4. 閉 会